

住ま傍に居る所の(集)のほどもかゝる可なり  
 我々の先祖の如く親の死に付  
 三年の喪守り勤むる事  
 唐の精進する事  
 名に自ら一三年の如く守る事あり  
 礼の本文にも既長也改(集)も不食すといひ  
 菜果(集)も守る事あり  
 節(集)も守る事あり  
 節(集)も守る事あり

兔園小説

不悉文庫

天照大神と皇祖伯言の辭

或云伊勢国天照大神と皇の泰伯とト説宋元代  
 ト云々ト儒者ト皇祖又其六(尤事)跡(尤事)跡(尤事)  
 左ありト神道者トハ世説と云媛(媛)の堂上方  
 禁中(方)ともふ(も)其(も)是(も)念(も)き(も)其(も)一(も)日本ハ大唐  
 と名別の式や云ん故あり然其(も)其(も)仰(も)之(も)是(も)其(も)考(も)り  
 其(も)の(も)表(も)依(も)り(も)循(も)ぐ(も)因(も)草(も)つ(も)子(も)祖(も)后(も)稷(も)子(も)と(も)二(も)男(も)  
 ハ(も)王(も)承(も)子(も)なり(も)后(も)王(も)承(も)子(も)ト(も)聖(も)人(も)也(も)王(も)承(も)子(も)の(も)子(も)文(も)王(も)其(も)

子武王周と何きり。聖人也。稱ス世子の位。素伯  
ハオの王季ニ讓り。宗と出。去。思。是。友。三。葉。  
之。り。論。也。も。素。伯。と。云。主。神。と。稱。也。と。云。き。り。日。多。也。  
ト。云。ま。り。と。云。ま。り。も。日。多。也。日。本。上。後。と。云。は。  
日。國。の。事。を。云。ひ。日。本。と。云。は。日。本。の。爲。國。  
と。云。鬼。高。同。の。土。民。住。に。住。ま。す。と。云。は。様。深。  
と。云。今。と。云。は。一。と。云。は。素。伯。九。別。日。尚。國。鶴。戸。の。漆。木。也。  
高。と。云。ま。り。と。云。は。日。多。也。日。多。の。爲。國。と。云。は。日。多。也。  
今。と。云。は。日。多。也。日。多。の。爲。國。と。云。は。日。多。也。  
今。と。云。は。日。多。也。日。多。の。爲。國。と。云。は。日。多。也。

耕作をなす。偏のこともなく。少のこともなく。人。道。開。明。  
と。云。ま。り。と。云。は。日。多。也。日。多。の。爲。國。と。云。は。日。多。也。  
然。る。に。伊。心。に。石。竹。事。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。  
仍。り。法。台。の。教。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。  
天。地。の。事。に。仁。川。龍。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。  
若。く。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。  
か。ら。し。め。彼。後。の。事。の。伊。心。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。  
の。形。の。伊。心。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。  
今。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。と。云。は。伊。心。

皇太子の書きし書と乱しし書形は  
 平也と云ふ所の符をくはは後の所の御姿を写  
 した云又内子三儀状と三儀の文字も写した  
 是中殿、賀礼を云ふくはは後なりと云  
 一と云ふは是くはは内子と書かぬ  
 也後後十夜ト云ふか子ハ五帝立尊ト云ふは  
 誤ありと云日本也、唯氏國と降るは卷の符も  
 之くはは内子也唯氏等左の符も  
 辨云は説古事ト云ふは後年ト云ふは

釋因月日本史に作し朝に西にたまに表記  
 以し始祖と云、後編ありしはありなり  
 云事ハ蕉子に記せる皇代抄に是なり  
 且舊事記古事記日本記に世説に似る事  
 更、あるは廣成の天皇に彦彦彦彦の古記拾遺  
 倭姫世記鎮座傳記佛饒彦次子宝基  
 本記類聚神祇本源元集等書、各見く  
 十津馬臺、付ハ世伝に傳ふ事、主籍中  
 殊く不見、梁の皇徳和尚の識文ありト

雖も志、待傳本にも及、綴冷室誌作  
里の事も其傳、祠証後とも、  
や神事正統た、其朝ノ一事中、日本、吳  
の表、後、  
唐志のく、我邦のま、  
僧侶の口、任、年、  
好、不正、  
固、我邦のく、  
國、我邦のく、

、迷い、  
若、  
其、  
之、  
稱、  
す、  
大、  
世、  
子、

多事、数千歳日本あり、其後、  
之也。史記号の世系を授け、  
伯率、子を、才仲、後十七世夫  
差、越の勾、越の爲、越するは、  
天皇三年、南、夫、差、前、  
事、事、事、事、事、事、  
臣、臣、臣、臣、臣、臣、  
別、別、別、別、別、別、  
氏、氏、氏、氏、氏、氏、  
日、日、日、日、日、日、

の後あり、是、是、我、朝、  
日、日、日、日、日、日、  
阿、阿、阿、阿、阿、阿、  
ホ、ホ、ホ、ホ、ホ、ホ、  
人、人、人、人、人、人、  
多、多、多、多、多、多、  
吳、吳、吳、吳、吳、吳、

政の時百濟の禪を信し對する事々々  
異言。離羅の道と福とと川とと異言。  
と對する後と云異言は源起の一事  
と云事也と云思ふ神一事事一印一  
まゝもてんくは日本記自來流一事事民  
公其道と一類言の事考と一唯ハ婦人  
の美備と云わんやと云思ふ神ハ龍社  
の陰事神也事在中華事ハ女王の啓  
國は眼也國ハ備と云わんや一唯事也

ニありと一事と福と云思ふ事々々  
多一事也福と云思ふ事々々  
本返ると此の事也。一と古の  
事也余ハ思ふ事也作と云事々々  
産印と考と一奇談新記後名の筆  
ニありと事々々事々々  
幸と云一漢と云事々々思ふ事の事々々  
一印ハ印の事也。備と云

中井桂樹